

漢文句法「返り点」確認テスト | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 山 (1) →登 (2)。読む番号は「登」が2番目・「山」が1番目。レ点は、すぐ下の一字を先に読んで上の一字へ返る符号なので、「山」を先に読み、次に「登」を読む。書き下しは「山に登る」。

問2 書を読む。

問3 水を飲む。

問4 我 (一) →漢 (二) →文 (三) →読 (四)。一二点は、二字以上を隔てて下から上へ返る符号。「一」の付いた「文」までを先に読み、そのあと「二」の付いた「読」へ返る。よって「我・漢・文・読」の順。書き下しは「我 漢文を読む」。

問5 我 漢文を読む。

問6 其 (1) →名 (2) →知 (3) →不 (4)。一二点で「其名」を先に読み、「二」の「知」へ返り、最後にレ点で「不」へ返る。書き下しは「其の名を知らず」。

問7 其 (1) →名 (2) →知 (3) →者 (4) →不 (5)。一二点で「其名」を読んで「二」の「知」へ返り、次に下点の付いた「者」を読み、最後に上点の「不」へ返る。書き下しは「其の名を知らざる者」。

問8 我 (1) →古 (2) →書 (3) →読 (4) →欲 (5)。まず「我」を読み、一二点で「古書」を読んで「二」の付いた「読」へ返り、最後にレ点の付いた「欲」へ返る。書き下しは「我 古書を読まんと欲す」。

問9 我 古書を読まんと欲す。(一二点で「古書」を読んで「読」へ返り、最後にレ点で「欲」へ返る。)

問10 (例) 返り点は、その符号の付いた字へ「下から順に」返って読む。例文⑦では、まず一二点に従って「古書」を読んで「読」へ返り、そのあとレ点に従って「欲」へ返る。一二点とレ点のどちらを先にするかは符号の種類ではなく、文中で下にある返りから順に処理する、と考えればよい。

問11 吾 (1) →日 (2) →三 (3) →吾 (4) →身 (5) →省 (6)。「三」は返り点のない副詞「三たび」なので、上から順にそのまま読む。「日」の次に「三」を読み、そのあと一二点で「吾身」を読んで「二」の付いた「省」へ返る。書き下しは「吾日に三たび吾が身を省みる」。

問12 良薬は口に苦い (よく効く薬は口に苦いものだ)。

問13

其の意を解せざる者。(一二点で「其意」を読み、「解」へ返り、下点の「者」、上点の「不」の順に読む。)

問14 これ (道理など) を知っている者は、これを好む者には及ばない。(『論語』の「知之者不如好之者」に基づく。)

問15 見レ花 (「見」の左下にレ点を付ける)。レ点で「花」を先に、次に「見」を読み、「花を見る」となる。

問16 読二論語一 (「読」に「二」、「語」に「一」を付ける)。「論語」を先に読んでから「読」へ返り、「論語を読む」となる。

問17 不_レ知_二其_一心_一上 (「其」「心」を一二点で先に読み、「二」の「知」へ返り、最後に上点の「不」へ返る。「心」に「一」、「不」に「上」を付ける)。書き下しは「其の心を知らず」。

※「不_レ知_二其_一心_一」のように、上下点を使わず「不」にレ点を付けて書いてもよい。設問の指定どおり上中下点を使う場合は上記の付け方になる。

問18 (1)レ点 (2)一二点 (いちにてん) (3)上中下点 (じょうちゅうげてん) (4)甲乙点 (こうおつてん)

問19 (例) すぐ下の一字を先に読み、その上の一字へ一字だけ返って読む返り点。

問20 (例) 二字以上を隔てて、下から上へ返って読む返り点。下に「一」、返る先の上の字に「二」を付ける。

問21 (例) 一二点を付けた部分をまたいで、さらにその上へ返って読むときに用いる返り点。

問22 返り点は漢字の左下に付ける。漢文を日本語の語順(下から上へ返る順序)で読むために、返って読む字とその順序を示す目的で付ける。